

第19回

渡来人の里フォーラム

～高麗郷の伝説!! 地理の視点から地域の魅力を探る～



日和田山とデイグラボッチ
イメージイラスト作：山田英次

高麗郷土史(高麗の伝説)より

かつて来た山をおろした。

大変疲れたので、とっくに一休と

そして高麗まで来ると

天秤にかけて担ってきた。

日和田山と多峯主山を

昔ダイチャラボッチャという巨人が、



日和田山

2023年

6月11日(日) 14:00～16:00【受付・開場 13:30より】

会場：高麗神社 参集殿2階 大広間 / 参加費：無料

定員：80名 要申込み

※定員を超える多数の申込みがあった場合、状況に応じて
本会場とは別に、モニター会場を準備いたします。(申込不要)

参加申込について 受付開始：5月22日(月) 午前9:00より (23日以降は8:30～17:00)

電話もしくは直接高麗神社窓口にて<電話 042-989-1403>定員に達し次第、締め切りとなります。本人の他、代理申込みは、3名までとなります。(ご家族は別)

第1部

13:30～

受付開始/開場

14:00～14:10

開会

14:10～15:00

講演

「日和田山をつくった
デイグラボッチと高麗郷の未来」
シマ地質社 ジオ・リサーチャー 張大石(チャン テソク)氏

講師

15:00～15:10

休憩

15:10～16:00

トークセッション

張大石氏・高麗文康(高麗神社 宮司)

16:00

閉会



講師：張大石氏

主催：高麗神社 / 協力：高麗1300 / 後援：埼玉県西部地域振興センター / 日高市
日高市教育委員会 / 日高市観光協会 / 日高市商工会 / 飯能日高テレビ / (株)ブラウズ<文化新聞>
お問合せ：高麗神社々務所 埼玉県日高市新堀833 電話 042-989-1403

第19回 渡来人の里フォーラム

～高麗郷の伝説!! 地理の視点から地域の魅力を探る～

第一部 【講演会】

講師： シマ地質社
ジオ・リサーチャー 張大石 (チャン テソク) 氏

演題： 日和田山をつくったデイダラボッチと高麗郷の未来

第二部 【トークセッション】

張大石 氏 ・ 高麗文康 (高麗神社 宮司)



デイダラボッチ イメージイラスト
山田英次 作

講演会 講師プロフィール

*張大石(チャン テソク) 1966年韓国生まれ

東京芸術大学大学院博士課程修了。東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター准教授、角川武蔵野ミュージアムの学芸員を経て、今現在は立川市内の地質調査会社に勤務。専門は地域文化遺産学。近年は武蔵野の歴史民俗、旅学、地質・地形学に関する調査研究を行っている。著書に「地域を創る文化遺産の可能性」、「日本最古の石鳥居は語る」など。



「デイダラボッチ」について

日本各地で伝承される巨人を言い、各地にはダイダラボッチ、大太法師(だいだぼうし)、デイラボッチャなど、類似する名称が数多く存在します。山や湖沼を作ったという伝承が多く、元々は国づくりの神に対する巨人信仰がデイダラボッチ伝承を生んだという説もあります。

埼玉県日高市に伝わる伝説

昔ダイヂヤラボッチャと云う巨人が、日和田山と多峯主山を天秤に懸けて担って来た。そして高麗まで来ると大変疲れたので、どっこい一休とかついで来た山をおろした。其の時、日和田山はそっと置いたので高いが、多峯主山はぐっとおろしたので低くなった。足が大変に汚れたので、日和田山に腰をかけて高麗川で足を洗った。その處を洗ひ(新井)と云う。高麗郷土史 附録：高麗の伝説 より (昭和35年 5月30日発行)



ハイキングでも親しまれている日和田山



高麗川が蛇行し巾着の形になっている名所

お問合せ： こま 高麗神社々務所 埼玉県日高市新堀833 電話 042-989-1403